

# 學 報

Kobe College Bulletin

ISSN0389-164X

NO. 167

2013. 3. 12

神戸女学院

学報委員会

## 一生を棒にふって 人生に関与せよ

中高部長 船橋 昭

今年の冬は雪が舞う日もあり寒さ厳しく、出会う人との挨拶に「おはよう」の次に「寒いですね」という言葉がつづきました。冬独特の温もりです。

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいる あたたかさ（俵 万智）

他の季節では「おはよう」の次に、その日の特別な気候とか事件の話題か、「お元気ですか」と相手の健康や生活を気遣う挨拶が続きます。しかし、この2、30年ほど前から、「お忙しいですか?」という言葉が会話に割り込み、これが幅を利かせてきたように思われます。「おはよう」「おはよう」「お忙しそうですね?」「お陰さまで」という具合にです。忙しいという言葉が、挨拶になる時代なのかもしれません。

「忙」という漢字は、「りっしん偏・こころの意」と「亡・なくなる、滅びるの意」で成り立っています。つまり大事な事を忘れてしまう程にいそがしい、という意味です。しかし現代においては「忙しい」に日常生活の濃さ、社会に用いられる有能ぶりといった現代特有の付加価値が付いたのでしょう。「忙しい」に、魔物の味がします。

新約聖書（口語訳）には、「忙しい」という言葉は1回だけ使われています。有名なマルタという女性の挙動にです。「一同が旅を続けているうちに、イエスはある村に入られた。するとマルタという名の女がイエスを家に迎え入れた。この女にマリアという妹がいたが、主の足元に座って、お言葉に聞き入っていた。ところが、マルタは接待のことで忙しくして心を取り乱し、イエスの所に来て言った。『主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、な



んともお思いになりませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃって下さい。』主は答えて言われた。『マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことを心に配って思い煩っている。しかし、なくてはならぬものは多くない。いや、一つだけである。マリアはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。』(ルカによる福音書10章38～42節)

イエスの地上生涯は孤独なものでした。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所もない」との言葉は、イエスの孤独な心を表しています。しかしそのイエスが、東の間の安らぎを見出す場所がベタニヤにありました。マルタ、マリア、ラザロの家族がそうで、イエスがこよなく愛した人々でした。聖書に何回か、弟子たちと訪問したとあります。来訪は突然であったと思われませんが、その都度、マルター一人が真っ先に立ち上がり出向か

え、始終あれこれともてなしをします。持ち前の賜物を発揮して、忙しく立ち回ります。人に仕えることを喜びとする、心優しい女性でした。しかしマリアは2回とも座ったままと書かれています。長年一緒に暮らしてきて自然にできた姉妹のパターンかもしれませぬ。マルタはイエスたちの旅で汚れた足を洗う湯を用意をしたり食事の用意をして忙しくもてなし、マリアはイエスの足元に座り話に聴き入りました。二人ともイエスへの愛情を、それぞれの方法で表します。イエスも彼女たちのそれぞれの良い性格を理解し、それぞれを愛したことが良く分かります。しかし一行は、10人を超えているはずですから、とてもマルタ一人では思うような接待が時間内にできなかったのか、とうとう不満の抗議をしてしまいました。

どれほど深い信仰と愛情でも、そこに「喜び」がなければ、おかしいと考えるべきでしょう。どれほど熱心な奉仕でも、そこに喜びがなければ、おかしいと思うべきでしょう。喜びとは、ことの真偽を判別する大切な基準です。喜びのない熱心さは、報いを求める不平なのです。喜びのない正しさも、他を裁く誇りに過ぎませぬ。いずれにしても、喜びのないものは、すべて未熟であると考えても間違いはないでしょう。

忙しくすると、取り乱し心が減じる可能性が生じ、言葉までが乱れます。マルタの言葉の問題点は、「わたしだけに」です。人間は「私だけ！私だけ！」と主張し始めると、とたんに言葉と語調が乱れます。自説を強く主張したり、絶対に私の考えが正しいと他を批判し始めると、実に乱れ以外ではありません。手伝いをするように言ってくださいとの抗議に、彼女の心の乱れの本質が現れていると分かります。

しかし、心乱したマルタに対してのイエス言葉には、優しさが籠もっていました。「マルタ、マルタ」と、彼女の名前を二回呼んでいます。心を乱すまでに接待してくれるマルタの志を、快く受け止める優しさが感じられます。そして「あなたは多くのことに心を配って思い煩っている。しかし、なくてはならぬものは多くない。いや、一つである。」と諭します。この箇所を読むと、実家の私の寝室にある屏風に筆で書かれていた詩をよく思い出します。

「冬の言葉」 高村光太郎  
 冬が又来て天と地とを清楚にする。  
 冬が洗い出すのは万物の本地。  
 天はやっぱり高く潔らかだ。  
 樹木は思い切って潔らかだ。  
 虫は生殖を終えて平気で死に、  
 霜がおりれば草は枯れる。  
 この世の少しばかりの擬勢とおめかしとを  
 冬はいきなり蹂躪する。  
 冬は木枯らしの喇叭を吹いて宣言する。  
 人間手製の価値をすてよと。  
 君等のいじらしい誇りをすてよ、  
 君等が唯君等たる仕事に猛進せよと。  
 冬が又来て天と地とを清楚にする。  
 冬が求めるのは万物の本地。  
 冬は鉄礮(かなしき)を打って又叫ぶ、  
 一生を棒にふって人生に関与せよと。

多忙な現代人にとって、他の人の話を聞くのは苦手です。多くの人が、自分の語る言葉に耳を傾けてくれる人を必死に探しています。イエスは度々夜通し祈り、また朝一番に独り祈ったと書いてあります。父なる神の言葉に耳を傾けました。マリアもイエスの足元に座り、一心に話に耳を傾けました。魂の深いところに渴きを覚えていたのでしょうか。また幾度もイエスから来るべき受難を聴いて、霊的な洞察力を持つ女性に成長しました。神の奥義を理解し、イエスに何をすべきかを悟るようになりました。過ぎ越しの祭りの6日前、イエスがこの家に来ると、マルタはいつものように給仕をしますが、マリアは非常に高価なナルドの香油をイエスの足に塗り髪のもで足をぬぐいました。弟子のユダは抗議をしました。この香油を売って貧しい人々に施しをすれば良いのにと。弟子たちにもイエスの来るべき受難に備えてのマリアの行為が理解できませんでした。イエスは世界中の何処でも、この人のした事は語られ、この人の記念となるでしょうと、言いました。イエスの生涯の終わりを悟った唯一人となりました。

マルタよ、なくてはならぬものは多くない、いや一つだけだ。この「マルタ」の所に自分の名前を置き換えてみたらどうだろうか。2000年前の片田舎の出来事ではなく、多忙な現代人への呼びかけであると、心静かに味わいたいものです。

## クリスマス報告

### 〈中高部 クリスマス燭火賛美礼拝〉

学報という場で、文章を書かせていただく機会が与えられたことに感謝します。私は、J1からコーラス部に入部していたため、毎年壇上でこの礼拝に参加してきましたが、今回はコーラス部に加えS2音楽選択者として、この礼拝に参加させていただきました。

燭火賛美礼拝は、受胎告知に始まり、救い主の誕生に至るまで、聖書の物語に沿って進んでゆきます。聖書の朗読があり、聖歌隊の歌を交えて、救い主誕生へと向かっていくのです。

さて、礼拝はパイプオルガンの前奏に始まり、立礼のあと、S3の先輩方のハンドベルの演奏があり、そのあと私たち聖歌隊が燭火を持って入場しました。続いて、聖書の朗読、S2音楽選択者によるマリア賛歌の後、神戸東部教会の古澤啓太牧師から、「神は世を愛された」と題しての奨励をいただきました。「キリストがお生まれになった日、占星術の学者たちは、今までなかった星を見つけ、その星に導かれてイエスの元へたどり着いた。しかし、その星が大きく誰にでもわかるように光っていた、とは書かれていない。その星は、満天の星空の中で、ほんの小さな星だったのかもしれない。いつも星を見ている占星術の学者だからこそ見つけられた、とも考えられる。このようなものは身近にもある。何かを毎日続けていく中で、いつもと違う点に気づき、そこから『神は世を愛しておられる』というメッセージを感じてほしい。」というようなお話でした。私は、イエス誕生の時の星は大きくて輝かしい星、というイメージを持っていたので驚き、改めて日々の大切さを考えることができました。

祈祷、聖書朗読の後、Sコーラス部による合唱、その後点火讃美歌とともに壇上のろうそくに火が灯され、S3音楽選択者によるハンドベルの演奏がありました。しっとりしたメロディーがとても幻想的でした。献金感謝のお祈りが続き、J・Sコーラス部の合唱、古澤牧師による祝祷、オルガンの後奏、退堂讃美歌をもって礼拝は無事終了しました。

毎年参加していたなじみ深い燭火賛美礼拝でしたが、今回この原稿のお話をいただき、今までなんとなく参加していた礼拝を改めて見ることができました。ありがとうございました。

(高等学部 2年生)

### 〈大 学〉

冬の寒さに身も心も引き締まる中、今年もクリスマスの時期をむかえました。例年と同じくクリスマス前の一週間は各学科によるチャペルアワーをまもり、演奏や合唱、心温まるクリスマスのエピソードをうかがうなど、趣向を凝らしたチャペルアワーをまもりました。

待ち望んだクリスマス礼拝のある金曜日は、授業の時間割を変更し、正午から大学クリスマス礼拝を皆でまもりました。夜に行われる学院公開クリスマス礼拝と同じく、音楽学部による演奏・合唱奉仕の中での讃美礼拝は、主イエスの誕生を祝い、敬虔な気持ちを思い起こします。今年はキリスト教学講師の後藤 真先生に「地には平和」と題してメッセージをいただきました。

終了後、出口においてささやかなチョコレートのプレゼントが会衆に配られ、皆で共にいただき、主イエスの聖誕をお祝いいたしました。

また、今年も学生ボランティアを集い、学生たちによる講堂前のクリスマスツリーの飾りつけやクリスマス礼拝での舞台照明、受付のスタッフとして奉仕をしていただきました。

昨年に引き続き、会場のほのかな灯りの中、暗闇の中に灯る壇上の蠟燭の光に、キリストの生涯と福音を感じる大切なひと時となりました。

(チャプレン室)



### 〈神戸女学院 公開クリスマス礼拝〉

学院全体でまもられる公開クリスマス礼拝は、今年で40年目をむかえました。

高等学部生徒によるハンドベル演奏、招詞、一同による讃美。会場の電気が消され、壇上の蠟燭の灯りだけがゆらめく中、音楽学部による演奏が会場に鳴り響きます。聖書が読まれ、中高部コーラス部による合唱。飯 謙学院チャプレンから「平和の福音」

と題してメッセージをいただきました。

再び音楽学部の演奏。今年から着任されました音楽学部の松本薫平先生に独唱していただき、その大らかな歌声とオーケストラの演奏に、現実を離れ、音楽に身をまかせるひと時を過ごしました。そして一同は高らかにクリスマスの讃美歌を歌い上げ、最後に祝祷をもってクリスマス礼拝は終了しました。

毎年、少しずつ舞台上に工夫を凝らし、2階からの演奏や独唱も、皆様から好評を博しました。

学院全体が大切にまもっているこのクリスマス礼拝は、神戸女学院がキリスト教主義学校であることを強く伝えられる大きな機会であるとともに、学院として共にひとつの祈りのときを持つことができる大切な場です。今年は夕方からあいにくの雨となり、急な変更が多数ありましたが、各持場の教職員の機転によって恙無く終えることができました。また来場者数もほとんど減ることなく、皆様がこのひと時を変わりなく大切に思ってくださいることを40年目の節目として改めて心に刻み、この場をかりて、心より感謝申し上げます。

次年度以降も主の恵みを共に授かるひと時を、神戸女学院に連なる者として、一緒に過ごしていただけるよう祈るものです。

司式：中高部チャプレン  
 奨励：飯 謙  
 指揮・編曲：中村 健  
 合唱・管弦楽：神戸女学院大学音楽学部  
 ハンドベル・中高部コーラス部  
 奏楽：片桐 聖子 独唱：松本 薫平  
 (チャプレン室)

#### 〈プレゼント・献金報告〉

##### ★施設へのプレゼント

今年も大阪水上隣保館（大阪府三島郡）と神戸真生塾（神戸市中央区）へプレゼントをお届けすることができました。神戸真生塾には、J家庭科研究部による手作りの小物とS料理研究部が焼いた名前の入ったクッキーを併せてプレゼントしております。

昨年に引き続き、東日本大震災をおぼえて、福島にある2つの知的障害児施設にもプレゼントを贈りました。社会福祉法人 牧人会（福島県西白河郡）の白河めぐみ学園と白河こひつじ学園です。

個人情報保護の問題もあり、続けていくことがなかなか困難な行事となってきましたが、誰かがあなたの事を思い、支えたいと思いを寄せているその気

持ちだけでも子どもたちに伝えることができるよう、これからも行っていきたいと思います。今年は神戸真生塾には中高部自治会と有志の皆さん、福島の2施設には中野チャプレン、大阪水上隣保館にはチャプレン室職員が、サンタクロースの代表としてプレゼントを運びました。

個人情報保護のため、  
 一部削除しています。

みなさま、ありがとうございました。

(チャプレン室)

## 2013年度年間標語

神の恵みによって今日のわたしがある  
のです。

〔コリントの信徒への手紙（一）  
15章10節〕

学院チャプレン 飯 謙

「今日のわたしがある」——これは「わたしは、あるべき、本来的なわたし自身となっている」と直訳されます。現在の自分自身を、成り行きによる偶発的産物としてではなく、神の恵みによるものとして、その必然性の側面を強調する表現を用いています。文脈に目を向けたく思います。

執筆者であるパウロは、コリントの信徒への手紙（一）15章でまずイエスの復活に言及し、自身がその出来事を先達から「受けた」（15章3節）と述べます。「復活」には、神が死んだと思われるものに生命を与え、互いに受け入れ合い、尊敬し合い、仕え合う者として、豊かに用いられるとのメッセージが語り込められています。聖書はそこに、すなわち神の導きを受けて互いに愛し合う者として生きるところに、本来的な人間の在り方を見ます。パウロは先達から知らされたこの導きの出来事を「神の恵み」（カリス）と捉え、「今日のわたしがある」と申します。聖書の理解によれば、「恵み」は、絶対的な他者である神から一方的な好意によって与えられ、さらに隣人のために奉仕する「賜物」（カリスマ）として働きます。パウロは、自身に与えられた「恵み」によって、他者に仕える「本来あるべきわたし自身」を再発見したと記しているのです。

本年、神戸女学院は岡田山キャンパス移転80周年という節目の年を迎えます。最近ではヴォーリズの関係で、神戸女学院関係者のみならず、多くの人に愛される学舎として知られています。しかし歴史を振り返りますと、同窓生、米国の友人たち、また教会関係者の祈りと献げ物、すなわち、神と先達からの恵みの賜物として与えられました。改めてこの出来事を覚え、わたしどもの学舎が神と隣り人を愛し、仕えることを学ぶ場であることを、感謝をもって心に刻みたく思います。

## KCC-JEE前会長 D. J. サーケルソン先生来校

2012年11月11日から1週間、KCC-JEE 前会長のD. J. サーケルソン先生が学院の来賓として来校されました。先生は28年間アメリカ赤十字に勤められた後、現在、ミネソタ大学で教鞭をとられています。

以前より、「神戸女学院のために何かお役に立ちたい」というご希望をお持ちでしたが、ご多忙のため、なかなか機会がありませんでした。今回、幸いにも先生を文学部のプログラムでのご講演をメインとして学院にお迎えすることができました。

滞在期間中、先生には総合文化学科の専門科目「メディアリテラシー入門」（景山佳代子専任講師担当）でゲストスピーカーとして話をいただいたり、文学部専門研究会や研究所主催のアッセンブリーアワーで講演をいただいたりしました。温かく誠実な先生のお人柄に触れて、感銘を受けた方も少なくないことでしょう。講演の後は、教職員の方々と懇談の時をもつことができました。

学院主催の歓迎会や、インターンシップでお世話くださった学生を含む学生たちとの交歓会、中高部にKCC-JEEが派遣して下さっている先生方を含む教職員との会合などを精力的にこなされました。また、華道部でのいけばな体験や音楽鑑賞、タルカット先生のお墓参りと、盛りだくさんの一週間をお過ごしいただきました。

今回の先生の来校が、神戸女学院とKCC-JEEの交流を一層充実させることにつながるものと思います。

（文学部長）



文学部専門研究会の講演風景

KCCだより

[Kobe College Corporation-Japan Education Exchange (KCC-JEE) is a non-profit organization established in 1920 in Chicago, Illinois, U.S.A. Since the establishment, KCC-JEE has been in partnership with Kobe College to create cross-cultural educational experiences for students and teachers in Japan and in the U.S.]

### Dr. Mori's Visit to Rockford College

Dr. Robert L. Head  
 President, Rockford College  
 KCC-JEE Board of Directors

Rockford College, soon to be Rockford University, has many relationships with colleges and universities around the world. However, none are more significant or long-standing than the very special relationship with Kobe College.

Dr. Koichi Mori, Chancellor of Kobe College visited Rockford College on September 12, 2012. Kobe College was founded in 1875 by two Rockford women, including Rockford Female Seminary graduate Julia Dudley. Kobe College was the first Christian educational institution for women in Western Japan. According to Dr. Mori, "Kobe College maintains a free and open educational environment that respects each student's autonomy and self-government. We seek to educate students who can freely express their own thoughts and ideas, in English as well as in Japanese. In other words, we strive to realize a true liberal arts education that will equip women with cultural accomplishments befitting our contemporary society."

I first met Dr. Mori in 2010. I enjoyed his visit and the opportunity to make him more aware of our campus and students. It was also a time for many to become better acquainted with Dr. Mori and Kobe College. As a scholar in the field of American Religious History, his perspectives and publications are extraordinarily interesting. Dr. Mori received his doctorate in theology from the Pacific School of Religion, Graduate Theological Union (Berkeley, California). He has published numerous

distinguished works including *The History of Religion in America and the Content of George W. Bush's Head: the World-view of American Super-conservatives*.

Rockford College and Kobe College have maintained an active student exchange program dating back to 1922. This year we are pleased to have Ms Tanaka as a member of our student body. Ms Tanaka is a junior at Kobe majoring in International Relations, which is a part of Kobe's English Department. Kobe students have a choice between studying in the United States at either Rockford College or the University of Wyoming. For Ms Tanaka, the small size of the Rockford campus was the difference. It reminds her of Kobe. Ms Tanaka's goals for this year are to improve her English language skills and experience the American education system.

Ms Tanaka's biggest surprise so far has been the way students interact with the professors in class. When the professor asks a question, students really engage. Asked what she misses most about being away from home, Ms Tanaka quickly responded that it is Japanese food, especially her mom's cooking. Ms Tanaka also misses her dog, Cookie. While she communicates with her family via Skype often, Cookie has yet to master the technology.

During an event held in his honor and attended by Rockford College faculty, staff and students, Dr. Mori expressed his gratitude for the relationship between Rockford and Kobe, and especially his delight in receiving from our students a banner expressing concern following the 2011 earthquake in Japan. Dr. Mori shared the following remarks, which have been condensed for this report:

"Dear President Head and the Rockford College Community: It is a great pleasure for me and my wife, Yukiko, to visit Rockford College. We are extremely grateful to you for your warm thoughts in planning this event. Frankly speaking, I was surprised and honored when I first heard this many Rockford College representatives would gather for us. I am also honored to learn Rockford's Mayor Morrissey has proclaimed this day Dr. Koichi Mori Day in Rockford!

Rockford College celebrated its 165<sup>th</sup> anniversary this year. Kobe College was established in 1875 by two women missionaries from (Rockford) the United States. The two colleges have enjoyed a long history of goodwill. I am very proud to hear Ms. Keiko Harada, who is a graduate from Rockford College and now a member of the Kobe College Board of Trustees, was selected as the RC Alumna of the Year.

We experienced the massive earthquake and tsunami in northern Japan on March 11, 2011 and the Fukushima nuclear power plant disaster followed immediately after the quake. The students of Rockford College sent us a special banner on which they wrote lots of heart-warming words to encourage the students of Kobe College. We will never forget your deep sympathy to the Japanese people. We really appreciate that banner and your encouragement.

Rockford College and Kobe College have a partnership agreement to exchange students. Last November, I had the opportunity to meet Dr. Head in Kyoto and discuss our relationship. President Head proposed a new idea of allowing Kobe students to participate in Rockford's English as a Second Language Program. I would like to commit to our future together with Rockford College. Thank you."

While Dr. Mori has been Chancellor of Kobe College since 2010, this was his first visit to Rockford College. We were delighted to host Dr. and Mrs. Mori and look forward to a continued and valued relationship with Kobe College.

The above was initially shared with the Rockford College community following Dr. Mori's visit.

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (KCC) は、1920年の創立以来、絶えず海の向こうから神戸女学院の学びを支えてくださっている、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。今年、移転80周年を迎える岡田山のキャンパス造営に対する多大な貢献をはじめとして、その活動が神戸女学院にもたらしている恩恵は実に多岐に亘っています。2004年、KCC は21世紀におけるその活動方針を明確にするため、名前の後にジャバ

ン・エデュケーション・エクステンジという副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。2008年より理事としてご活躍いただいているロックフォード・カレッジ学長の Dr. Head が今回の KCC だよりをお送りくださいました。]

## 「森院長をお迎えして」

ロックフォード大学学長 KCC-JEE 理事  
ロバート・L・ヘッド



間もなく Rockford College から Rockford University に改称されるロックフォード大学は、世界中の多数の大学と関係を持っています。しかしながら、神戸女学院との特別な関係ほど意義深く、また長年に亘り続けているものは他にありません。

2012年9月12日、神戸女学院理事長の森 孝一先生がロックフォード大学を訪問くださいました。神戸女学院は、Rockford Female Seminary (後のロックフォード・カレッジ) を卒業したジュリア・ダッドレーを含む、2人のロックフォード出身の女性によって1875年に設立された、西日本で最初的女子キリスト教教育機関です。「神戸女学院は、学生生徒ひとりひとりの自主・自律を尊重する自由で開かれた教育環境を維持し、日本語と同様に英語でも、自分の思いや考えを自由に表現することができるよう教育を行っている。言いかえれば、現代社会にふさわしい教養を女性に身につけさせる真実の教養教育を実現するために努力している」と森先生からお聞きしました。

私が森先生に初めてお会いしたのは2010年でしたが、この度は森先生にロックフォード大学のキャンパスと学生たちについてより深くご理解いただき、またロックフォードの多くの関係者にとっては、森先生とお会いして神戸女学院をよりよく知るためのよい機会でもありました。アメリカ宗教史分野の学

者として、森先生のご見解と出版物は大変興味深いものです。森先生は、Pacific School of Religion, Graduate Theological Union (カリフォルニア、バークレー)で神学博士号を取得されました。“*The History of Religion in America*” (『宗教からよむ「アメリカ」』)、“*The Content of George W. Bush’s Head: the World-view of American Super-conservatives*” (『「ジョージ・ブッシュ」のアタマの中身—アメリカ「超保守派」の世界観』)を含む、多数の優れた著作を出版されています。

ロックフォード大学と神戸女学院大学は、1922年から活発な学生交換プログラムを続けてきました。今年度も、本学は、田中さんを留学生として受け入れています。田中さんは、神戸女学院大学英文学科3年生で、国際関係を専攻しています。神戸女学院大学では、アメリカ留学の場合、ロックフォード大学がワイオミング大学を選ぶことができますが、田中さんにとっては、ロックフォード大学の規模が、神戸女学院大学と似ていたことが選択の理由でした。彼女の目標は、英語力を磨くことと、アメリカの教育制度を体験することです。

留学して、田中さんがもっとも驚いたのは、授業中の学生と教授のやりとりでした。教授が質問を投げかけると、学生が活発に反応するのです。故郷を離れて何が一番恋しいかと聞かれて、田中さんはすぐに日本食、それも母の手作りだと答えました。また、家族とはスカイプを使ってよく話せるものの、愛犬クッキーは、まだその技をマスターしていないので、会えないのが寂しいそうです。

ロックフォード大学の教職員と学生が出席し、森先生のために開かれた催しで、森先生はロックフォード大学と神戸女学院との関係に感謝を表し、特に2011年の東日本大震災後、ロックフォードの学生たちから贈られた励ましの「旗」(バナー)を大変喜んでいと述べられました。森先生がそのときおっしゃったことをこの報告のためにまとめたものが次のとおりです。

ヘッド学長並びにロックフォード大学の皆様。

今回、ロックフォード大学を初めて訪問できたことを、私と妻・悠紀子は大変喜んでます。そして今夕、このようにすばらしい歓迎会を開催していただきましたことに、心から御礼申し上げます。

最初にこの歓迎会へのロックフォード大学関係者の参加者リストを見せていただいたとき、その多さに驚かされました。また、重要な役職にある方々がご出席くださっていることは、私たちにとって本当

に名誉なことでもあります。そして何よりも、モリセイ・ロックフォード市長が2012年9月12日を“Dr. Koichi Mori Day”と宣言してくださったということにヘッド学長から知らされた時は、驚きとともにこの名誉に身が引き締まる思いでございました。

ロックフォード大学は今年創立165周年を祝われました。神戸女学院は1875年に二人の婦人宣教師によって設立されました。創立者の一人であるダッドレー先生はRockford Female Seminary (後のロックフォード・カレッジ)のご出身です。二つの大学はこれまで友好関係を築いて参りました。とくに今年、ロックフォード大学の卒業生であり、現在、神戸女学院理事である原田恵子先生が、“RC Alumna of the Year”に選ばれましたことは、私たちにとって誇りとするところです。

2011年3月11日、私たちは東日本大震災を経験いたしました。そして、地震の直後に福島第一原子力発電所の事故が起きました。ロックフォード大学の学生の皆さんは、神戸女学院大学の学生宛に、温かいお心が込められたたくさんの言葉が書かれている、特別のバナーを送っていただきました。私たちはロックフォード大学の皆様を送ってくださった深い思いやりを、決して忘れることはないでしょう。このバナーとそれに込められたお励ましに対して、心より御礼申し上げます。

ロックフォード大学と神戸女学院大学は学生交換の協定を結んでいます。2011年11月に、ヘッド学長と私は京都でお目にかかり、両大学の関係について意見を交換することができました。そのとき、ヘッド学長はこれまでの学生交換とは別に、神戸女学院大学の学生がロックフォード大学のESL(外国人学生のための英語教育)プログラムに参加できるようにするための、新しい提案をしてくださりました。この提案に心から感謝いたします。そして、今後ますますロックフォード大学との協力関係を発展させていくことに努力していきたいと願っています。ありがとうございました。

森先生は、2010年に神戸女学院の院長に就任されましたが、今回が初めてのロックフォード大学訪問でした。私たちにとって、森先生ご夫妻をお迎えすることは大きな喜びでありましたし、今後も続いてゆく両校の価値ある交わりを大いに期待しております。

(以上、今回の文章は、森先生のロックフォード大学ご訪問後、私からロックフォード・カレッジ・コミュニティに報告したものです。)



退職のことば

個人情報保護のため、  
9 ページ目から13ページ目は削除しています。

人 事

個人情報保護のため、一部削除しています。

慶 弔栄 誉**<お知らせ>**

森 孝一理事長・院長が2013年4月1日～  
2014年3月31日の任期で中高部長に就任いたします。

## 秋季公開講座報告と春季公開講座のお知らせ

2012年度の秋季公開講座を11月17日、24日、12月1日に開催いたしました。今回のテーマは「メディアとコミュニケーション」で、3回にわたり次の先生方に各演題での講座をお願いいたしました。

### 第1回 11月17日（受講者数44名）

近畿大学文芸学部教授の内藤 能先生にお話いただきました。タイトルは、「コミュニケーションー出会い。岡田山キャンパスを想うあるアメリカ人。」で神戸女学院で英語を学びその後通訳者として活躍された内藤先生に会議通訳者としてのお仕事と現場についての様子をお話いただきました。中でも内藤先生にとって、ハケット先生（ミシガン大学名誉教授）との出会いやエピソードが大変心に残っておられるそうで、その興味深いお話もご披露いただきました。

### 第2回 11月24日（受講者数74名）

2012年4月に神戸女学院大学文学部英文学科に着任された高村峰生専任講師が「災厄・映像・文学 9・11と11年の持続」をテーマに講義してくださいました。9・11を題材にした映画を流しながらの興味深い講座で、災厄がライブ映像を通じて同時に世界に流されるこの時代に、映画や小説の様なフィクションがどのような役割を果たすのかについてお話していただきました。

### 第3回 12月1日（受講者数77名）

2012年4月に神戸女学院大学文学部総合文化学科に着任された景山佳代子専任講師にお話しいただくことができました。タイトルは「メディアと『事実』」でメディアについて研究をされている先生に、メディアの中の事実とはどういうものなのかについてお話しいただきました。「メディアは私たちを騙す」というメッセージに含まれる「騙す」とは、そして、どのような事実から騙されるのか、メディアの伝える『事実』をどうやって理解すべきか、についてもお話しいただきました。

3講座とも大変興味深い内容で、ご来聴くださった皆様も多くのことを学ばれ、考えられたにちがいありません。ご来場くださった皆様、講師そして司会をつとめてくださった先生方、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

2013年春季公開講座のテーマは、「ことばとリズム」で、以下のように日程と講師が決定しております。

### 第1回 6月8日(土)

講師：同志社女子大学名誉教授 安森敏隆先生

### 第2回 6月22日(土)

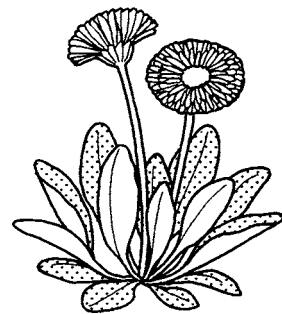
講師：総合文化学科准教授 建石 始先生

### 第3回 6月29日(土)

講師：英文学科教授 和氣節子先生

いずれも神戸女学院で午前10時から11時半までとなっております。申し込みなどは不要です。多くの方々にご来場いただき、知識の分かち合いを通し、良い交流の場となることを願っております。

(生涯教育委員長)



史料室の窓(30)

## キャンパス探訪(1)

### 岡田神社

神戸女学院史料室

今年2013年4月に神戸女学院はキャンパス移転80周年を迎えます。1931年から建築が始まった岡田山キャンパスに神戸女学院が全学挙げて移転を完了したのが1933年4月5日のことでした。まだ一部工事が続いている状態で新学期が始まりました。そしてキャンパスのお披露目をしたのが翌年4月18日。このとき、キャンパス内の建物などを紹介する『神戸女学院新築記念帖』という記念の冊子が作られました。

さて、今回はこの冊子には掲載されていないある建物をご紹介します。登場してはいないけれど、誰もが毎日のように目にしているちょっと気になる不思議なもの—そう、岡田山にある神社についてです。

正門を上がってデフォレスト記念館を過ぎると、正面に小さな神社が見えてきます。岡田神社といます。キリスト教主義学校の中に、しかもキャンパスの主要な建物である大学の事務棟の真正面に神社がある、このことに違和感を覚える人もあるのではないのでしょうか。戦前、キリスト教系の学校は敵国の思想を教えているとしていろいろな圧力を受けていましたから、国の政策に従って学内に神社を設けたのではないかと考える人もいるかもしれませんが、そうではありません。この岡田神社、小さいとはいえ、実はとても由緒のある神社なのです。

古代日本の社会制度(律令制)の補助となるような法律書(もしくは規則書)に「延喜式」(927年完成)というものがあります。この神社はその「延喜式」に名前を出ている古い神社なのです。ですから神戸女学院が岡田山に移転して来るはるか昔からここにあったということになります。

ではなぜ、そのような神社が学校の中に、しかも宗旨違いのキリスト教の学校のキャンパスと思える場所にあるのでしょうか。

神戸女学院が全学移転を決定し、岡田山の敷地を見つけたとき、ここには旧尼崎藩主の別邸がありました。当時の持ち主である旧尼崎藩主・櫻井忠胤子爵は東京にある本邸に住んでいました。子爵には9人の子女がいましたが、健在する6人の内5人が女子であったということもあって、神戸女学院に好意



当時の岡田神社



現在の岡田神社

を寄せ、低廉な価格でここを譲ってくださいました。土地購入後、敷地内を詳しく調べてみると、学院を驚かせる事実が判明しました。岡田神社と呼ばれる小さい石の祠があり、その境内46坪は櫻井子爵の所有地ではありませんでした。つまり岡田山敷地の中に神社の飛び地があったというのです。当然、学院は岡田山敷地を学校用地として認可申請するためにこの神社の移転を希望しました。移転費用を負担する上、現在の境内に倍する広さの新鎮座地を寄進すると提案して、周辺や氏子総代多数の同意を得ましたが、岡田神社を管理していた廣田神社の宮司は延喜式内の古社で由緒もあるから一学校のために軽々しく遷座することはできないと反対の意向を示しました。事態が緊迫すれば、学校用地として認可が下りなくなることも懸念されます。そこで学院は岡田神社の現状維持を了承しました。そして、岡田神社と学校敷地との境界線に生垣を設け、祠の周囲に木を植えて学校建築との見合いを避け、参拝者のために参道を設けることで合意したのです(結局、参道は特に設けられるには至りませんでした)。こういう事情で、キリスト教学校内と見える位置に神社が存在することになりました。

現在の岡田神社は、のちに江戸時代の古材を使用して建て替えられた社ですが、神社の周辺は石の柵で囲われ、木が茂っています。そして、神社関係者が例祭日には、学院の正門から岡田山に上がってこられる光景が、今でも見られます。

## 新刊紹介



石川康宏(総合文化学科教授) 著

『橋下「維新の会」がやりたいこと』

新日本出版社 2012年7月刊  
134頁 667円+税

## 政治を取り戻すために

国際的に見ても異常な状況だ。メディア主導のバッシングが続いたなかで内閣の首が次々とすげ替えられていく。八方塞がりの政党政治に対する失望が、強いリーダーシップへの希求を引き起こす。前回の衆議院選挙で「第三極」とも呼ばれた「日本維新の会」が台頭した背景には、こうした状況に対する根強い政治不信があったと思われる。

「日本維新の会」の前身である「大阪維新の会」時代からの動きに着目しながら、石川は、今後「維新の会」の影響のもとで国政に対して行われる施策の数々が、旧来の新自由主義政策をさらに押し進めた弱者切り捨て的なものになっていくことを懸念する。石川の論理は明晰である。「維新の会」の財界・企業偏重主義や、それによって福祉や社会保障がカットされ、「勝ち組」だけが利益を得る社会が形成されつつある状況が多面的に分析されている。蓄積された利益(=内部留保)は、国体や企業体の財政援助・損失補填にのみ充当され、底辺でそれらを支える人々に還元されることがない。弱者への投資が存在しない、究極的には一人一人の幸福を考えることなどない社会の姿が浮かび上がる。

ひょっとしたら、グローバル経済システムは国民国家の経営と相容れないのではないか。世界中から利潤を集めることと、一国の国民を養うこととのあいだには、本質的な結びつきなどないのではないか。経済とは、きわめて反政治的なものであり、そうであるがゆえに、非常に非-倫理的なものかもしれない。ならば有権者は、政治は何のためにあるのかと自問しつつ、生き残るための次の一手を探す必要がある。自己蓄積していく資本の運動に抗いつつ、誰とどのような共同体を構成していくか、これが、石川が本書を通じて読者に差し向けた大きな宿題であろう。

(総合文化学科専任講師 大橋 完太郎)

## その他の新刊一覧

立石浩一(英文学科教授) 他著

『小松英夫作品集 Works of Hideo KOMATSU』

(おりがみはうす)

遠藤知二(環境・バイオサイエンス学科教授) 他著

『糸の博物誌—ムシたちが糸で織りなす多様な世界』

(海游舎)

岩田泰夫(総合文化学科教授) 編著

『岡本理論の継承と展開 第4巻

ソーシャルワーク論』 (ミネルヴァ書房)

立石浩一(英文学科教授) 他著

『神谷哲史作品集2 Works of Satoshi KAMIYA 2』

(おりがみはうす)

米田眞澄(総合文化学科准教授) 他著

『講座 ジェンダーと法 第3巻 暴力からの解放』

(日本加除出版株式会社)

田辺希久子(英文学科准教授) 他訳

『ケン・ブランチャードリーダーシップ論[完全版]』

(ダイヤモンド社)

張野宏也(環境・バイオサイエンス学科教授) 他著

『現場で役立つ水質分析の基礎

化学物質のモニタリング手法』

(オーム社)

## <オフィスの宝物>

### 大学間交流の歴史と絆

本学では多くの国内外大学との交流があります。今回はその関連で贈られ、学長室で大切にしている記念の品々を宝物としてご紹介します。

留学協定校では、ロックフォード大学（米国）の掛け時計、キャンパス模様が織られたブランケット、ペナント等。ワイオミング大学（米国）のマグカップ。クイーン・マーガレット大学（英国）、モントレー国際大学（米国）のペーパーウェイト。広東外語外貿大学（中国）の透かし模様が美しいプレート、ペン立て等。梨花女子大学（韓国）の人形、ミリアム大学（フィリピン）からの絵画、バスの置物も学長室の書棚を賑わせています。中期海外研修・語学研修先のクイーンズランド大学（豪州）、ESDプログラムにより留学生を受け入れている華南師範大学（中国）。ペリタハラパン大学（インドネシア）、元智大学（台湾）、国内では、東京女子大学、宮城学院女子大学等、他にも挙げきれないほど多くの大学からの記念品があります。

これらのものは、学生たちが滞在した地で学び異文化を理解し様々な経験をしてきた努力の証です。また、共に力を合わせて学生の人間性をより豊かなものにしていきたいという大学同士の強い意志・絆のしるしでもあります。

これからも、大切な交流の歴史が守られ、新たな絆が増えること、そして、この交流を通して得たものが学生一人ひとりにとってかけがえのない大切な宝物となることを願っています。

（学長室）



学長室にて 国内外大学より贈られた記念の品々

### オフィスの宝物

わたしの勤める心理相談室は、理学館別館の中にある。目の前が神戸女学院の森、という立地であるため、落ち着いた安らぎの感じられる相談室であると思う。臨床心理士を目指す大学院生の実践の場として、また、臨床心理学の考え方で地域に役立つあれこれ（教員による近隣機関へのアウトリーチ活動、年に一度夏に無料相談と講演会を軸におこなわれる心理相談室ウィークなど）を提供してゆく場としての使命を担っている。

「相談室」というからにはカウンセリングが主な活動となる。わたしはその活動をおこなう大学院生が奮闘する様子をすぐそばで見守る非常勤カウンセラーで、この3月で勤めて丸7年になる。

カウンセリングをまだ若い、初学の大学院生が担当することに不安を覚える方もおられるかもしれない。しかし、彼女たちの真摯な態度、カウンセリングを担当するようになるとめきめきと成長してゆくさまには目を見張るものがあり、この懸命さこそが来談者により方向で作用していると感じる。わたしの仕事はそこを守りつつ、彼女たちが心理士として身につけてゆくべきものを少しでも伝えることにある。

ここは彼女たちの真剣な学びの姿勢と、それを育む教員方のあたたかいまなざしにあふれており、その雰囲気 coming 来談者と彼女たち自身のあゆみを支えていると感じる。

心理相談室にとっての「オフィスの宝物」は、大学院生たちの真摯な態度であるように思う。

（心理相談室非常勤カウンセラー）



相談室にて院生に箱庭について指導する様子

## 大学報告

### 英国イースト・アングリア大学と 交換留学協定を締結

イースト・アングリア大学 (UEA) は、ロンドンから東へ列車で約1時間半のノーフォーク州の州都ノーウィッチにある学生数約13,000人 (内留学生約1,200人) からなる英国でも有数の大学です。

その UEA と2012年9月に交換留学協定を締結することになったのは、UEA が2013年から2年次の学生へ1年間の日本への留学を義務づける日本語専攻を新設することになったからで、その専攻をご担当される先生と本学英文学科の田辺先生とのご親交がきっかけです。

同時に、国際交流センターでも、以前から英国の幾つかの大学とは認定留学先として協定がありましたが、より現状のニーズに合うプログラムの開発をはかるべく、新規協定先を模索していました。中でも UEA は、立地や内容等の条件面の良さから候補の一つと考えておりました。

そのような中、2012年4月に UEA 側の日本の大学視察の際に担当者をご紹介いただき、UEA の説明をお聞きすると併せ、本学の留学生受入れに関する体制についての説明を行い、その後の交渉と6月の現地視察を経て、この度の交換留学協定の締結に至りました。また、締結後の10月には、UEA の担当者が、本学を訪問され、学内の寮等を案内する機会がありました。

2014年度9月から、UEA の交換留学生在が毎年本学に来られることとなります。

この英国との交換留学協定を、今後は、双方間の交流をもとに、維持、深めるとともに、将来的にはさらに人数を増やすなど発展させていきたいと願っています。

(国際交流センター)



UEA 学生寮

### KCキャリアカフェ

キャリアサポートリーダー 文学部 英文学科 4年生

2012年11月、就職活動を控えた3年生を対象に「KC キャリアカフェ」という就職サポートイベントを開催しました。計5日間の昼休みの時間を利用して、金融や製造業、航空などの業界の内定者に、少人数の座談会形式で就職活動の経験談や各業界の対策について話を聞くというものです。就職活動が本格化する前のこの時期は、様々な業界を知ることが重要です。そこで異なる業界の内定者の話を聞けるよう、途中でグループ交代をしながら進めました。

このイベントはキャリアサポートリーダーとして活動する4年生3名で企画したもので、「キャリアカフェ」という名前には、まるでカフェでおしゃべりをしている様なアットホームな雰囲気の中で先輩の話聞き、業界やキャリア形成について考えるきっかけにしてほしいという思いが込められています。

少人数制の座談会では、内定者が実際に企業に提出したエントリーシートや当時使用していたスケジュール帳などを見せながら臨場感のあるアドバイスをし、3年生はメモを取りつつ真剣に耳を傾け、積極的に質問もしていました。

先の見えない不安な就職活動をくぐり抜け、振り返ればあの時こうしておけば良かったと気付いた点が多々ありました。それを3年生に伝え、少しでも役に立つことができたので、「KC キャリアカフェ」を企画して良かったと思います。来年もこのような内定者によるサポートの輪が繋がることを願っています。



「KC キャリアカフェ」の様子

## 第4回卒業公演を終えて

去る11月29日、30日そして12月1日と音楽学部舞踊専攻の卒業公演が行われました。今回はエミリー・ブラウン記念館でのスタジオパフォーマンスということで、29日、30日の夜公演、12月1日の昼夜公演と全4回の公演に計500名近いお客様がお集まりくださいました。プログラムは元々第2期卒業生のために島崎によって振り付けられました作品に新たに手を加えましてリニューアルされました“JOURNEY”、そして去年の7月に台湾公演のガラで踊られました“VOICES”に加え、ソロリサイタルの中で特に優秀な作品であった4年生の山田、長崎の振り付けによる2作品を3年生の新田、岡が踊り、最後に今回の卒業生のために創りました新作、“ティティテア”が披露されました。劇場とは違ったスタジオという空間での公演でしたが、踊る側の学生たちにとっては正にホームグラウンドであり、自宅のリビングルームで踊っているとまではいかないにしても、かなりリラックスした雰囲気の中それぞれの公演を踊ることができたのではないのでしょうか。お客様にとりましては、ダンサーが間近にいる分ダイレクトに伝わってくるものがあったのでしょうか、涙を流されていらっしゃる方を数多く見かけました。ティティテアとはアオイ語で「光り輝くもの」という意味で、彼女たちのこの神戸女学院で過ごした時間が、そしてこれから歩いていく時間がそれぞれにとって光り輝くものであって欲しいという思いで創りました。3月までの残り短い時間ですが、最後の公演となります定期公演にむけて光り輝く時を過ごして欲しいと願っています。

(音楽学部舞踊専攻教授 島崎 徹)



ティティテア

## 学生寮音楽学部生有志によるチャリティーコンサート

昨年に引き続き今年度も寮生の音楽学部生有志によるチャリティーコンサートが11月30日にめじらウジで開催されました。このコンサートは東日本大震災復興の支援の一環として何か学生たちにできることはないだろうかと考えて、産声をあげたものでした。

学生たちは学業や寮でのさまざまな役割をこなす傍ら、このコンサートのために皆で夜遅くまで集い、ミーティングを重ねてまいりました。話し合いの中で出演者や曲目が決められていきました。彼女たちの熱意に心を動かされた周囲の学生たちがポスター・プログラム・チケットの作成や受付・ビデオ撮影などで積極的に協力を申し出てくれました。

曲目にはピアノ・フルート・マリンバ・ハーブ・声楽の演奏、舞踊専攻学生による作品などが盛り込まれた楽しいコンサートになりました。

参加者は約70名、収益金は昨年同様、福島県社会福祉法人牧人会の知的障害児入所施設「白河めぐみ学園」と「白河ひつじ学園」にチャブレン室を通じて全額おささげいたしました。

年末のお忙しい時期にも関わらずご出席くださいました教職員・学生の皆様、また学生たちに活躍する場を与えてくださいました大学の関係部署の皆様、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。このような学生たちの手による自主的なコンサートが今後も継続して開かれることを願っています。

(学生寮舎監)





## 文学部講演会

文学部講演会実行委員長

12月1日の14時から、宝塚歌劇団演出家の植田景子さん、料理研究家の三好万記子さん、舞台女優の谷野まりえさんのお三方をお招きし、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館にて講演会を開催しました。お三方とも本学文学部のご出身です。講演会の企画・運営は昨年に続き、今年も全ての段取りを学生に委ねていただきました。実行委員は総合文化学科と英文学科のそれぞれ1、2、3年生の有志でメンバー構成されました。

今年のテーマは「夢をあきらめないで～夢を叶えるために～」です。昨年とは対照的なものを掲げ、それぞれ違った職業を通して「夢を叶えるためにすべきこと」について講演していただきました。テーマは今の日本の経済状況やそれに伴う就職難の中でも「保守的にならず、自分の意志を貫きたい」、「どうしても自分の夢を叶えたい」など将来について学生たちの強い思いがこめられています。

講演会で印象に残った「実感」という言葉。私たちは今回、広報で自分たちの考えを発信することに苦労しました。創造する側の努力だけでなく、聴講者の人数、評価、批評など様々な反応を実感することでやっと講演会が完成するのだと思います。また、このような貴重な機会を与えていただけて本当に感謝しています。最後に、広報をはじめ全ての段階でご協力して下さった文学部事務室の方々、先生方、広報室の方々、企画を練る上でアドバイスをくださった昨年の講演会スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。



講演会を終えた後の集合写真

## “第2回武庫川流域圏 ネットワーク活動報告会”開催

2012年12月8日(土)に本学名誉教授である山本義和先生が代表を務める NPO 法人武庫川流域圏ネットワークが主催する“第2回武庫川流域圏ネットワーク活動報告会”がジュリア・ダッドレー記念館102号室で開催された。招待講演者は兵庫県武庫川対策室の職員で、一般講演者は本学の副専攻プログラムである地域創りリーダー養成プログラムを受講している地域活性化総合実習グループと、武庫川流域で活動している NPO 団体であった。

はじめに、招待講演者の樋口和夫室長と當舎良章課長より、武庫川の川づくりを武庫川水系河川整備基本方針に基づき、総合的な治水を、河川対策、流域対策および減災対策の3本柱で進めていくと同時に、地元住民、NPO 団体、事業者および行政の連携強化の必要性についての講演があった。一般講演は本学の地域活性化総合実習グループから、平成24年度に行った地域活性化のためのイベントである1) 竹でエコっちゃおう！プロジェクト、2) みんなでわくわく農体験！、3) 見つけよう！山の季節、4) 自然の中で遊ぼう！みんなで作ろう！飯盒炊さんの4題の報告があった。その他、武庫川を基盤とする NPO 8 団体から、武庫川流域連携、治水に関する地域活性化運動の紹介があった。

本学の学生、教員および外部からの一般参加を含めて約80名の参加者があり、活発な質疑応答がなされ、報告会は盛会に終わった。

(環境・バイオサイエンス学科教授 張野 宏也)



地域活性化総合実習グループの発表者

## 第37回神戸女学院大学英語英文学会 (KCSSES) 大会報告

2011年度の第35回大会より名称を神戸女学院大学英語英文学会(KCSSES)と改称して、本大会は3年目を迎えた。例年通り11月の最終金曜日、30日に午後2時からL-28教室で開催された。今回は英米文学・文化コースが学会準備を担当した。

特別講演は、神戸市外国語大学英米学科教授の新野 緑先生に、「ジェイン・オースティンと邸宅」という標題でご講演いただいた。「田舎の邸宅(カントリー・ハウス)」が、小説の単なる舞台背景としてではなく、オースティンの時代の地主層、ジェントリ階級の象徴として描かれ、屋敷の描写、あるいはその欠如が、当時のジェントリ階級の上流階級としての価値観、輪郭、そしてそれらの喪失を描写する表象になっていることをご指摘になられた。活発な議論が行われ、大変興味深いご講演であった。

研究発表では、本学卒業生で、関西学院大学大学院文学研究科博士後期課程在学の江崎早苗氏より「A Minimalist Approach to Tough-Construction」、そして本学大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程在学の姫野氏より「The Ruined Cottage MS B から MS D への改訂に見られる対話の重要性」についてご発表いただいた。

ご参加の皆様及び日頃 KCSSES をご支援いただいている会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

(英文学科長)



ご講演中の新野 緑氏

## 2012年度 音楽学部定期演奏会報告

2012年度の音楽学部定期演奏会は、昨年12月4日(火)午後6時30分より兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホールで開催されました。

ヘンデルの「メサイア」は、神戸女学院にとって100年以上前から歌い継がれてきた特別な曲です。最近では4年に一度、オリンピックイヤーに定期演奏会の演目として取り上げられています。

演奏は中村 健教授指揮のもと、ソプラノ 斉藤言子教授、アルト 西 明美教授、テノール 松本薫平准教授、バリトン 萩原寛明非常勤講師の4名のソリストが好演し、男声合唱には神戸中央合唱団、新月会、同志社グリーククラブ他、多くの協力グループ、そして森院長、飯学長をはじめ本学教職員の参加もあり、心強く、誇らしくもありました。

毎回、男声コーラスの確保が課題となっていますが、今回は大学生から80代のベテランまで充実した合唱団メンバーでの演奏が実現しました。このことは神戸女学院生たちが女声パートを一層張り切って歌う大きな刺激となりました。また、オーケストラには卒業生のチェンバロ 下西美都、オルガン 片桐聖子両名がゲスト出演し、華を添えてくれました。

ヘンデルのメサイアにはさまざまな版があり、前回はモーツァルト版での演奏でした。これは管楽器が付加された版で、大きな会場を考慮しての選択として効果がありましたが、今回はオルガンを適所に配することにより原典版での演奏が実現しました。

本年度から座席はすべて指定席となり、開場前に長時間お並びいただくこともなくゆっくりご来場いただけました。

今回の定期演奏会は1000名近い来場者を迎えることができ、盛況のうちに終えることができました。寒い中、足を運んでくださった皆様、演奏を支えてくださったスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

(音楽学科長)



2012年度 卒業論文題名

~~~~~  
文学部 英文学科  
~~~~~

~~~~~  
文学部 総合文化学科  
~~~~~

~~~~~  
2012年度 音楽学部卒業演奏会演奏曲目  
~~~~~

2012年度 卒業論文題名

~~~~~  
人間科学部 心理・行動科学科  
~~~~~

~~~~~  
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科  
~~~~~

2012年度 博士論文題名

~~~~~  
文学研究科  
~~~~~

2012年度 修士論文題名

~~~~~  
文学研究科  
~~~~~

~~~~~  
2012年度 音楽研究科修了公開試験曲目  
~~~~~

2012年度 博士前期課程・修士論文題名

~~~~~  
人間科学研究科  
~~~~~

個人情報保護のため、  
23ページ目から43ページ目は削除しています。

## &lt;先輩からのメッセージ&gt;

個人情報保護のため、  
一部削除しています。

## 大切なのは「出会い」と「コミュニケーション」

宮重 美帆

(人間科学部人間科学科卒業)

2001年3月に卒業し、4月にミズノ株式会社に入社しました。入社してすぐ、私は情報システム部に配属され、システム開発や資産管理、社内IT教育の仕事をしていました。当初は「ミズノでやりたいことじゃない!」と不満もありましたが、私の性格や得意分野を活かしてくださる上司や先輩方のおかげで、前向きに仕事をする事ができるようになりました。

そして3年半後には、一度はやってみたいと思っていた商品企画に異動となり、女性ターゲット商品の強化としてフィットネス水着の担当となりました。大学時代から学祭実行委員としてイベント運営に関わっていたこともあり、次第に商品に連動した水泳のイベントの企画運営もさせて頂けるようになりました。

どこの部署にいるときも、「こうしたい、あんなことがやりたい」と気持ちを日々伝えていくことで、自分を活かしてくれる仕事につくことができました。

今では、「大好きなこの会社をもっと働きやすく、もっとみんなに好きになってもらいたい」という思いから、あんなに企画が好きだった私が、なんと!ミズノユニオンの労働組合専従となり組合の立場から会社を変えていく仕事をしています。

どの会社にも、表向きにはわからない色々な仕事に関わる人がいます。ずっとその仕事だけをするわけでもありません。だからこそ、その会社の考え方がだったり、その会社の人が好きと言えるようになったら、ずっとそこで働き続けることができるのではないのでしょうか。

これから社会に出て行く大学生のみなさん、たくさん経験をしてください。色々な人と出会って話を聞いてください。その中でどんなことをしたいのか、具体的な夢を考え、語って行ってください。そうすれば、あなたに合った会社、人に出会えると思います。



ミズノユニオン事務所にて

## 2013年度大学入学試験結果(2/20現在) 報告と概要

2013年度一般入学試験前期A・B・C・D日程では、延べ2,120名の志願者があり、1,453名が受験しました。志願者の内訳を見ますと、文学部英文学科は531名(昨年比80%)、総合文化学科は816名(同比91%)、音楽学部音楽学科は30名(同比214%)、人間科学部心理・行動科学科は465名(同比75%)、環境・バイオサイエンス学科は278名(同比76%)、全体で431名減(17%減)という結果になりました。

本学では基本的に年内入試での入学者の割合を減少させ、一般入試での入学者比率を上げる努力を続けています。しかし今年度も昨年同様、長引く不況を反映して学費の安い国公立大学志向、地元志向、資格重視の傾向が続いています。

優秀な入学者確保の手段として今年度より新たに入学試験成績優秀者給与奨学金制度を設置しました。対象者のうち、文学部4名、音楽学部1名、人間科学部4名、計9名の申請があり入学してもらえるものと期待しています。

入試制度は大きな変更をしていませんが、大学入試センター試験の平均点が下がったにもかかわらず、

大学入試センター試験を利用する入試(以下DNC試験)志願者は2年続けて相当数減少となりました。

試験は1月29日、30日、31日、2月12日の4日間実施し、2月6日にA・B日程474名、2月19日にC日程123名、D日程107名の合格者を発表しました。

DNC試験では昨年比82%の380名が受験し、成績上位層の獲得を目指し、2月8日に197名の合格者を発表しました。

今年度最後の一般入試後期日程は、3月1日に文学部、人間科学部で実施されます。

他大学のほとんどが一般前期及びDNC試験の合計志願者数を伸ばしている状況で、本学は3,013名から2,500名へと志願者数激減という厳しい現実を突き付けられました。

この結果を真摯に受け止め、受験生減少に歯止めがかかるよう次年度以降も積極的に学生募集活動を実施してまいります。

(入学センター・広報室課長)

### 〈神戸女学院大学の企画による2013年度夏期語学研修参加者募集〉

2013年度の夏期語学研修は、次の4プログラムが実施予定です。詳細は4月作成予定の募集要項をご参照ください。また募集説明会を実施する予定です。日程は、決定次第、国際交流センター掲示板とK-CLIPで告知します。春期(2014年2~3月)にも語学研修を予定しています。詳細は国際交流センター(デフォレスト記念館1階)まで。TEL:0798-51-8579 E-mail:kokusai@mail.kobe-c.ac.jp

#### 第4回 西オーストラリア大学(豪州)

時期:2013年8月~9月 募集人数:20人 参加費用:約45~50万円

西オーストラリア州のパスにある自然豊かなキャンパスで、約4週間、総合的に英語を学ぶ。ホームステイの予定。

#### 第1回 ニューカッスル大学(英国)

時期:2013年8月~9月 募集人数:20人 参加費用:約50~55万円

イングランドの北東部にある美しい田園風景と歴史的な町の中心部に位置する大学で、約4週間の英語研修を受講する。他国の学生とともに寮生活をしながら生きた英語を学びます。

#### 第4回 カリフォルニア大学アーバイン校(米国)

時期:2013年8月~9月 募集人数:20人 参加費用:約50~55万円

他国の留学生と共に約4週間、基礎および応用英語を学ぶ。英語力によっては、ビジネス英語クラスを受講することも可能。

#### 第2回 ヨーク大学(カナダ)

時期:2013年7月~8月 募集人数:20人 参加費用:約50~55万円

多文化都市トロントにあるカナダで3番目の規模を誇るヨーク大学で、約4週間の英語研修を受講する。現地学生との交流や学外活動も含まれます。

## <受入れ留学生報告>

### 掛け替えない思い出

徳成女子大学交換留学生

ずっと憧れの的だった日本、旅行では経験できないことも留学ではきっとできると思って神戸女学院に来ることにしました。初めて出会った神戸女学院は自然に囲まれていて韓国の大学とはぜんぜん違う雰囲気でした。伝統や歴史を感じられる立派な建物を見ながらこんなに美しい大学で勉強できるということが、信じられないほど嬉しかったです。

私が神戸女学院に着いたばかりの時のことが昨日のことのようですが、もう季節は変わって、

新しい年を迎えました。それほど神戸女学院での生活が楽しかったということでしょう。時間は矢のように早く流れています。珍しく見えた右側の運転席や大勢の人が自転車に乗って走る姿は普通の景色になりました。ご飯を食べる時、納豆がないと寂しくなる自分を見て、もうここの生活に慣れていていると思いました。

初めての海外生活で時々心細くなったり寂しくなったりすることもありますが、振り返ってみると寂しさまで含めてここで私が感じたその全てが、これからの私を導いてくれる目印になりました。大学の授業は韓国での授業のように日本語の文法をそのまま覚えるので終わりではなく、もっといきいきとした日本語を習うことができました。言語学の授業では日本語と韓国語を比較しながら似ているところと違うところを勉強しました。毎週様々なテーマについて先生と意見を交わす授業で、前より論理的に自分の考えを伝えられるようになりました。生け花、琴、茶道などの日本の文化を体験する授業もありました。朝鮮語の授業にボランティアとして参加して発音の練習を手伝いました。ボランティアでしたけど私が今まであまり意識せずに使っていた母語をみんなはなにからなまでに一生懸命勉強している姿を見て、私も日本語の勉強をもっと頑張ろうと思うようになりました。

友達のお祭りに参加したこと、京都で着物を着て他の観光客たちから写真を撮られたこと、奈良の鹿たちと一緒に写真を撮ったこと、友達の家泊りに行って満員電車を体験したこと、神戸のルミナリエを見に行ったことなど、たくさんの思い出作りができました。寮の友達と料理と一緒に食べたり点呼の後部屋で夜遅くまでおしゃべりしたりしました。他にも学生寮での生活、大学祭、クリスマス礼拝などは貴重な経験でした。

友達と日本と韓国の大学、社会、政治、文化などについて話し合っ、お互いの国のことを詳しく知ることができました。友達と私が一番好きな日本の歌を聞きながら、これからの私たちはどうなるかのような深い話をしたこともあります。その時、結局相手と友達になることや深い話ができることに、国籍や文化の違いは関係ないことだと思いました。相手と私の母語が一緒だとしてもそれが即ち疎通をするとは言えないかもしれません。私の母語が日本語としてもお互い一方的に言葉だけを話さず、お互い違う言葉で話しているのに過ぎないです。相手の話によく耳を傾けることと相手に言葉で表現しようと努力することがどれほど重要なのか、しみじみと胸に響きました。いろいろな人と接することによって視野を広げることができました。また今まで漠然とした将来のことも真剣に考えることができるようになりました。

そして私の面倒をみてくれた寮の先生方、IPC（国際交流センター）の先生方、留学生バディたちと中国からの留学生、友達のおかげでより楽しい留学生生活を過ごしました。ここでの毎日は夜空の星のようにキラキラと輝きました。残りの留学期間も悔いが残らないように頑張っていきたいと思います。神戸女学院での思い出はこれからの私の人生をささえてくれる宝物です。韓国に戻っても、一生大切にしたいと思います。

## <留学生バディ報告>

### 留学生バディをして感じたこと

人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 2年生

留学生バディの役割は日本に来た留学生の生活・勉強面でのサポートです。関西国際空港での出迎えから始まり、生活するために必要なものを揃える手伝いや、大学と一緒にお昼ご飯を食べたりします。また、神戸、大阪、京都などの名所へ一緒に観光をしたりもしました。留学生バディが留学生の寮に泊まったり、留学生バディの家に留学生を招待したりと様々な交流をしていくうちに、すぐに仲良くなることができました。また歓迎会、クリスマスパーティー、送別会などのイベントを通して、普段は交流できない学部の違う友達もできました。

日本が好きで留学しているわけなので、留学生の方が私よりも日本のことを知っている時もあります。その時はただ感心しただけなのですが、このような場では日本人である私が、日本のことをきちんと勉強して、自ら教えてあげられるような立場にならなければならないと思いました。

楽しいことは一瞬で過ぎてしまうもので、もうすぐ留学生は帰ってしまいます。半年の留学でも一生忘れられない思い出ができたように、私も留学生と同じくらい素敵な思い出ができました。留学生が帰ってしまうと、当然毎日会うことはできませんが、メールや手紙ですずっと連絡を取りたいと思っています。そして私は春休みに韓国へ語学研修に参加することになり、次は留学生として異国で生活するのですが、向こうの大学に留学生バディがついているのですごく心強いです。



クリスマス会にて

## 研究所活動報告

### 講演会

〈前期：2012年6月29日〉

「岡田山キャンパスの自然

—大学キャンパスの自然誌—

野寄 玲児 環境・バイオサイエンス学科教授

兵庫県西宮市の神戸女学院岡田山キャンパスでは、これまでに約600種の野生植物と約90種の野鳥の生育や生息が確認されている。また、キャンパスの総面積の35%にあたる約5haが天然林で覆われており、全国の大学キャンパスの中でも屈指の自然環境が保たれている。

岡田山キャンパスに豊かな自然が残されたことの根底には、全国各地に名建築を残したW.M.ヴォーリズによるキャンパスプランの存在がある。岡田山は上ヶ原台地の南東端に位置し、西、南、東の三方を斜面に囲まれたテーブル状の地形を呈している。ヴォーリズのキャンパスプランは、台地上の平坦面を上手に利用して建物群やグラウンドを配しており、その結果、台地斜面には広大な森が残ることとなった。これらの森の大部分は、約80年前の移転以来ほぼ手つかずの状態を保たれており、今ではクスノキやヒメユズリハ、アラカシ等を主とする鬱蒼たる天然林に発達している。この分厚い森によって外界から隔てられたキャンパスは、学生・生徒が学問や芸術を修めるための静謐な教育空間となっている。

岡田山キャンパスはその80年に及ぶ歴史の中で、中等・高等教育の場としての本来の機能の他に、市街地に浮かぶ緑の島として地域の自然環境保全や景観保全に大きく貢献してきた。岡田山の西隣に位置する愛宕山が、急斜面まで住宅で埋め尽くされている現状をみると、神戸女学院の存在がこの岡田山の豊かな自然を守ったと言っても過言ではない。近年の岡田山キャンパスの森はカラスの囀りとなっていて、環境保全上少なからぬ問題が生じているが、貴重な緑地を抱える故の悩みともいえる。

講演では、大学キャンパスが持つ自然・環境保全機能について、全国の大学キャンパスとの比較を通じて考察するとともに、岡田山キャンパスの自然の歴史の変遷、四季折々の景観や自然に関する最近の話題等についても紹介した。

〈後期：2012年11月16日〉

「KCC-JEE と神戸女学院」(英語講演・同時通訳)

KCC-JEE 前会長 David J. Therkelsen 氏

### 研究所総会研究発表

〈前期：2012年7月6日〉

「ピアニスト小倉末子のピアノ曲集と歌曲」

ピアニスト小倉末子研究の現在(津上智実音楽学科教授)

小倉末子編纂のピアノ曲集(お話と演奏：山上明美音楽学科教授)

小倉末子作曲の歌曲(お話と演奏：澤内 崇音楽学科教授、賛助出演：松本薫平音楽学科准教授)

〈後期：2012年12月7日〉

「神戸女学院に天皇がやって来た」

河西 秀哉 総合文化学科専任講師

天皇は近代日本において、「神聖ニシテ侵」してはならず、「現人神(あらひとがみ)」という存在として捉えられていた。そして、そうしたシステムの下に、日本は対外戦争に突き進んでいった。

しかし1945年に敗戦を迎え、事態は一変する。天皇制に対する厳しい国際世論を受け、その改革が進行した。その一つが、1946年のいわゆる「人間宣言」である。天皇制の「民主化」をアピールすることで、批判をかわし、存続を図ろうとしたのである。

そのような「民主化」をアピールする形で、昭和天皇の全国巡幸が1946年2月より開始された。天皇自身が、戦争によって被害を受けた国民を慰めたいという強い意思を持っていたことも、巡幸が実施された要因の一つである。

1947年6月には関西への巡幸も実施された。その中で、6月12日に神戸女学院への訪問も行われる。なぜ神戸女学院は天皇の訪問場所になったのだろうか。県教育行政レベルでは、戦災校と非戦災校の両者を天皇に視察してもらうように計画しており、非戦災校として神戸女学院が選定されたと推測される。

天皇訪問当日に向け、神戸女学院では入念な準備が行われた。当日、天皇は昼食を食べるために神戸女学院を訪問する。天皇を出迎えた学生たちは、泣きながら讚美歌を歌った。天皇も涙を流しながらそ

れを聞いていた。また、学生たちと天皇との交流もあったようである。天皇はその後、学生たちのダンスを見学し、次の訪問場所へ向かった。翌日の新聞には、神戸女学院における学生と天皇との触れ合いは、微笑ましいエピソードとして紹介された。「民主化」された国民と天皇との結びつきを示す、重要な光景として報道されたのである。

では、学生たちはどのように天皇を受け止めたのか。その問題については今後の課題としたい。

### 専門部会研究発表会

1. 英文学科 2012年6月7日  
「文部科学省検定教科書（中学校英語）改訂を通して」

白井 由美子 専任講師

2. 総合文化学科 2012年6月29日  
「原子力発電所と地域社会  
—福井県大飯（おおい）町を事例として」

小松 秀雄 教授

3. 環境・バイオサイエンス学科 2012年7月5日  
「新たな毒性評価手法～トキシコゲノミクス～」

横田 弘文 准教授

4. 音楽学科 2012年11月21日  
「イタリア民謡とイタリアオペラ」

松本 薫平 准教授

5. 総合文化学科 2012年11月23日  
「アメリカ世紀転換期の男らしさの問題  
—小説家ジョン・ドス・パソスの場合」

三杉 圭子 教授

6. 心理・行動科学科 2012年11月30日  
「対人コミュニケーションの心理学」

木村 昌紀 専任講師

7. 英文学科 2012年12月19日  
「比較文学的アプローチによる触覚論」

高村 峰生 専任講師

### 専門研究会

1. 2012年11月15日

“Message to Action Model”

Professor, University of Minnesota

Dr. David J. Therkelsen 氏

2. 2012年12月19日

「待降節のコラールとオルガンの音楽」

オルガニスト、聖徳大学教授 松居 直美 氏

### 国際学会

1. 2012年8月9日～11日

中国・香港

“The 12<sup>th</sup> Asian Society of Adapted Physical  
Education and Exercise Symposium  
(ASAPE2012)”

金山 千広 体育研究室教授

2. 2012年9月6日～7日

英国・ノリッチ

“BAJS Conference 2012”

田辺 希久子 英文学科准教授

3. 2012年10月10日～13日

米国・コロラド州デンバー

「アメリカ女性作家学会国際大会」

鵜野 ひろ子 英文学科教授

4. 2012年10月25日～26日

ベルギー、ルーヴァン・ラ・ヌーヴ

“Paradoxes of the Threshold: Literature, Place  
and the Enviroment in 19<sup>th</sup>-21<sup>st</sup> Century  
Literatures”

高村 峰生 英文学科専任講師

### 助成・補助

出版助成 5件

体育・芸術活動助成 1件

研究助成 11件

総合研究助成 2件

研究補助 2件

研究成果配布補助 18件

専門研究会補助 2件

### 発行物

『論集』第59巻第1号（通巻第168号）2012年6月発行

『論集』第59巻第2号（通巻第169号）2012年12月発行

（研究所）



## 女性学インスティテュート活動報告

### 特別講演会

日時：2012年4月27日(金)

「三美神をめぐる」

濱下 昌宏 名誉教授

### 連続セミナー

「文学の中の女—歩く女—」(全4回)

〈第1回〉

2012年5月25日(金)

「浮遊する日系少女」

吉田 純子 元文学部英文学科教授

〈第2回〉

2012年6月1日(金)

「越境する言葉と身体—多和田葉子をめぐって」

孟 真理 文学部総合文化学科教授

〈第3回〉

2012年6月8日(金)

「阿仏尼『十六夜日記』の世界」

藏中 さやか 文学部総合文化学科教授

〈第4回〉

2012年6月15日(金)

「モダンガール、歩く」

飯田 祐子 文学部総合文化学科教授

### 学外講演会

(会場：西宮市大学交流センター)

〈第1回〉

2012年10月9日(火)

「バイリンガルの子どもたちによる、  
会話の理解と認知の発達について」

松尾 歩 文学部英文学科准教授

〈第2回〉

2012年10月24日(水)

「近代に女性天皇が排除されたのはなぜ？」

河西 秀哉 文学部総合文化学科専任講師

### 学生懸賞論文(第14回女性学インスティテュート賞)

応募2編。優秀賞2編。

### 授業

Cu134(1)(2)「女性学(実践編)」

Cu234(1)(2)「女性学(理論編)」

いずれも講師4名によるオムニバス形式

### インターディシプリナリープログラム

2名修了。

### 発行物

『女性学評論』第27号(2013年3月発行)

『ニュースレター』No.53(2012年10月発行)

『ニュースレター』No.54(2013年3月発行)

(女性学インスティテュート)

## &lt;私の研究&gt;

## Spread Your Wings through Fieldwork

Yolanda Alfaro TSUDA

Hello! Please call me “Yolanda.” My research themes and classes focus on gender, migration, human security and border issues. The reason why I am interested in these issues is because I was born in the Philippines, and have studied, lived and worked in different countries. Thus, I have seen the many problems that people (especially women and children) face because they move from one place to another.

I believe that the best way to have real knowledge is to get out of the classroom. Therefore, I take students to fieldwork and travel with them to different regions in Japan and abroad. Most of the students who take my classes would have travelled individually to about five to ten countries before graduation. The picture you see here shows the members of my 2012 “Zemi Class.” Individually or as a group, we have travelled to a combined number of more than 100 countries! So come travel with me to understand ourselves and our societies, and be comfortable in thinking, speaking, writing, and reading about global issues in English.

(英文学科教授)



## 私の研究

三宅 志穂



私は理科教育と科学教育の分野で、科学や自然に興味・関心をもつ人をどのように育成していくかということについて、国内外の事例から探究しています。現在は5件の研究に取り組んでいます。①大学生を対象とするSD (Sustainable Development :

持続可能な発展) 実践力としての科学リテラシー育成プログラム開発と評価、②未来を生きる探究能力と科学力を備えた市民を育成する科学教育カリキュラムの開発、③自然科学分野における才能教育の動向と可能性についての調査研究、④科学的素養醸成のコミュニケーション・メディアとしての科学絵本教育モデルの開発、⑤欧州における科学技術系博士号取得者のキャリア形成を支援する事業マネジメントの研究。①は国際的教育スローガンである持続可能性教育として、若者(学生)に備えたい素養を抽出しました。②は理科教育課程において地域環境素材の活用がどれだけ進んでいるかを調査しました。③は科学分野の担い手として活躍が期待される才能ある子どもを見出して育てていく手法を英国の事例から調査しています。④は科学や自然に興味・関心を高めていくツールとしての新しい絵本モデルを提案しようとしています。⑤では北欧調査を分担しています。

と、ここまで止めどもなく書いたところで600字を過ぎました(759字制限)。人前で話すことと、原稿を書くことはまだずいぶんと苦手です。最近ようやく国際学会の審査にパスして発表できる機会を確実にもてるようになりました。教育研究の分野はドメスティックな意味合いが強いので、海外に向けた発信は難しい面もあります。国内外で評価を受けて、社会的あるいは学術的意義のある研究成果を着実にあげていくことが私の課題です。研究を通して得たことは授業で学生にも伝わる工夫をして、科学や自然に興味をもつ女性の育成に役立てていきたいです。

(環境・バイオサイエンス学科准教授)

## &lt;課外活動紹介&gt;

[クラブ]

## 津軽三味線部

部長

私たち津軽三味線部は毎週金曜日に約2時間、大学クローバー館305号室で活動しています。部員は6人で卒業生の外部顧問に指導を受け、腕を磨いています。主な活動として年間を通して老人ホームをはじめ病院でのボランティアや学内のめじらウジで留学生に向けて演奏をしています。今年は、「インドア・メーラー2012」と第12回西宮市大学交流祭「キャンドルナイトコンサート」という二つの大きなイベントから出演依頼をいただき参加しました。

神戸のメリケンパークで行われた「インドア・メーラー2012」は印日交流を目的とし、3日間で21万人が来場しました。初めての参加でしたが、他の出演者の方々とも交流でき有意義な活動だったといえます。アクタ西宮で開催された「キャンドルナイトコンサート」は、関西学院大学や甲南大学、武庫川女子大学などの大学が参加しており、私たち大学生と地域の交流を目的としたイベントでした。

同好会から正式な部になって2年目ですが、今年は出演依頼を多くいただき、これからもどんどん実績を積んでいきたいと思っています。ほとんどの人が大学に入ってから初めて津軽三味線の音色を聴き、入部しました。週1回の部活動ではなかなか弾けないので、自主的な個人練習が欠かせません。少人数ですが部員の結束をかためて和気あいあいと活動しています。大学生活で新しいことを始めようという方はぜひ入部をお待ちしております。



「インドア・メーラー2012」にて

[クラブ]

## 農業研究会

部長

私たち農業研究会は歴史が浅く、部員数6人という小さなクラブです。主に神戸女学院内にある畑で野菜や果物、花を育てています。今は苺、白菜、ジャガイモ、大根などを栽培しています。野菜作りは難しく、思考錯誤の毎日です。失敗することもあります。めげずに励んでいます。「作物を作ることを楽しむ。」これは活動の目的のひとつですが、これだけではありません。それは食べ物の大切さ、ありがたみを知ることです。例えば、お昼にお弁当の蓋を開けると中に入っているプチトマト。何気なく口にしている方も多はず。そのプチトマトを実際に自分たちの手で育てることによって、食べ物の大切さを学ぶことです。

私たちの活動は、時には大学を飛び出して、農業ボランティアに参加することもあります。先日は甲山で農業イベントのお手伝いをさせていただきました。内容は親子で芋ほりをし、調理するというものでした。しかし残念なことに天候は雨でした。それでも参加者の皆さんに楽しんでもらえるように一生懸命頑張ってお手伝いしました。イベントが終わった後に参加者の方に「ありがとう」とお声をいただき、それまでの疲労や緊張がとんでいきました。農業を通じてたくさんの人と関わることができるのは私たち農業研究会にとってとても嬉しいことです。

皆さんも一緒に野菜を作る楽しさ、大変さ、嬉しさを味わいませんか。ぜひ入部をお待ちしています。



年明け初の作業風景

## 中高部報告

### 冬の修養会 釜ヶ崎訪問から考えたこと

高等学部 3年生

釜ヶ崎の方に食事を配るときに、まず絶えることのない列に驚きました。食事を配り終えた後、「まだある？」と話しかけてくださった方もいて、たくさんの方がみんなで作った食事を心から待ち望んでいることを肌で感じました。不器用ながらも自分なりに気持ちを込めて食事の支度の手伝いをしたことに大きな意味を感じました。

### 冬山スキー

12月21日(金)～25日(火)の5日間、毎年恒例の冬山スキー実習が行われました。J3が18名、S1が15名、S2が12名、生徒合計45名、教師7名が参加しました。

初日はバスに約7時間揺られながら、志賀高原スキー場へ移動し、2日目からグループに分かれて実習に入りました。雪も多く全リフトが動いていたので、たくさんコースを滑ることができました。4日目の24日にクリスマス寒波が押寄せて大雪が降り、気温もマイナス15度近くまで下がりましたが、みんな元気よく根気強く最後までスキーを楽しんでいました。ちょうど寒波が押寄せた24日の朝から熊の湯スキー場へ移動し、日本一標高の高い位置にあるパン屋さんにて班ごとに温かいココアと焼立てパンを楽しみ、休憩を挟んで長いコースを下りて帰りました。

その日の夜はクリスマス礼拝をもち、S2生徒のお話しに耳を傾け、静かな時を過ごしました。その後はサンタクロースとトナカイにプレゼントを貰い、ケーキも食べてS2生徒の企画によるゲームをしてみんな楽しく過ごすことができました。

大きな怪我も無く、無事に日程を終えることができました。生徒、引率の先生方、温かく見守ってくださった保護者の皆様、教職員の皆様に感謝いたします。

(ディレクター)

## <先輩からのメッセージ>

### 近道ではなくても、大丈夫

藤谷 淳子  
(中高部卒業)

私は今、小学校の教師をしています。大変なことも多いですが、元気いっぱい子どもたちと過ごす毎日は充実しています。

今、学生の皆さんは、卒業後の進路や就職について悩むことが多いのではないのでしょうか。わたしが小学校の教師を目指そうとはっきりと思ったのは、大学4回生の就職活動中でした。会社の面接を受ける時、志望動機を自分の言葉で言えない自分に気付き、小学生の頃に憧れていた教師を目指してみようと決めたのです。しかし、大学受験の際に「心理学ってかっこいいかな。おもしろそう。」と深く考えずに学部を選んでしまったので、私の通っていた大学に、小学校の教員養成課程はありませんでした。そこで、大学卒業後にアルバイトをしながら通信教育で小学校の教員免許をとることにしました。

少し遠回りはしましたが、当時はいろいろと悩みもしましたが、これでよかったのだと今では思っています。ですから、皆さんにも、なりたいものになるための近道を通らなくても大丈夫だということをお伝えしたいと思います。今、なりたいものがなくてもあせる必要もないと思います。そして、神戸女学院の空間と神戸女学院で過ごす時間、神戸女学院で出会った仲間を大切に、学生生活を過ごしてください。この三つの「間」は、卒業後も、きっと自分を支えてくれることと思います。

個人情報保護のため、  
一部削除しています。

## 第47回クラブ部長賞 第28回文化・スポーツ賞

今年度クラブ部長賞は2012年12月20日(木)の2学期終業日に表彰が行われ、JとSの3クラブずつ計6クラブが受賞されました。受賞クラブには表彰状と盾、副賞が贈呈されました。

文化・スポーツ賞は2013年1月15日(火)に表彰が行われ、受賞者には中高部部長船橋先生から表彰状とメダルが贈呈されました。文化・スポーツ賞は、学校代表として各大会等へ参加し、顕著な成績をおさめた団体、個人に授与されるものです。賞の基準は西宮・阪神地区で第1位、兵庫県・近畿・全国で第3位以内とするものであり、選考委員で審議し受賞者をそれぞれ決定しました。

クラブ部長賞、文化・スポーツ賞は、生徒のクラブ活動や、学校生活での活性化を願い、生徒の努力を称えることが目的であります。来年度もたくさんの受賞者が選出されることを願っています。

施設課の方には講堂のステージを始め、美しく華やかな表彰式にふさわしい会場を設営していただきました。有難うございました。

### 第47回部長賞

Jコーラス・Jテニス・J卓球  
Sテニス・Sバレー・S華道 以上6クラブ  
前年度 JESS・Jバレーボール・Jバスケット  
ボール・SESS・S絵画・S漫画イラスト研究  
以上6クラブ

個人情報保護のため、  
54ページ目から  
55ページ目左段は、  
一部削除しています。

### 第28回文化賞 (32名)

☆阪神 ESS ユニオンシナリオリーディングコンテスト 第1位

☆第25回大阪地区・学生いけばな競技会団体の部  
準優勝

☆兵庫県私立高校第8回英語スピーチ・コンテスト  
第2位

☆第28回成田山全国読書大会 成田山賞

読売賞

☆第17回全日本高校大学生書道展 書道展賞

☆第32回近畿高等学校総合文化祭囲碁部門(団体戦) 兵庫県代表 優勝

☆第1回近畿高等学校囲碁選手権大会(女子個人戦) 第3位

☆第36回全国高等学校総合文化祭囲碁部門都道府県団体戦 第3位

☆第六回全国高等学校囲碁選抜大会女子九路盤戦  
準優勝

☆第36回全国高等学校総合文化祭囲碁部門女子個人戦 第2位

☆日本倫理・哲学グランプリ(第20回国際哲学オリンピック国内予選) 銀賞

☆第59回高等学校英語弁論大会 第2位

☆第58回青少年読書感想文兵庫県コンクール  
兵庫県知事賞

☆ゲーンズ杯高校生英語英語スピーチ・コンテスト  
2012 優勝

☆第1回 EF Grand Prix English Contest 優勝

☆ブリガム・ヤング大学ハワイ校第14回全国高校生  
英語スピーチコンテスト関西地区第二地区予選  
第3位

☆第8回英語スピーチコンテスト 優勝

☆第23回上野学園—ゴードンストーン英語コンテスト  
\* (副賞：ゴードンストーン・インターナショナルサ  
マースクールに招待) 優勝

☆兵庫県私立中学第8回英語レシテーション・コン  
テスト 第1位

第2位

☆正筆会第14回全国学生公募誌上展硬筆の部 会長  
賞

☆税に関する書道 西宮納税貯蓄組合連合会長賞

**第28回スポーツ賞** (17名)

☆第56回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技団体  
の部 第3位

☆第9回兵庫県中学校秋季テニス大会学校対抗の部  
第3位

☆平成24年度近畿高等学校選抜テニス大会新人の部  
第3位

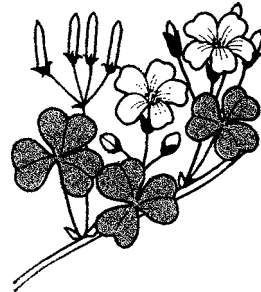
(中高部教諭)

## 2013年度中学部入学試験について

日程：2013年1月19日(土)・21日(月)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
135	257	246	153

(中高部事務室)



## &lt;チューリッヒ州立オーバーラント高校留学報告&gt;

## スイスで世界の高校生との学び

高等学部 3年生

私は、2011年2月から2012年1月までの一年間、スイスのチューリッヒ州に留学していました。永世中立国であるスイスは、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語が公用語です。スイスの高校生の他、中南米、オセアニア、アジア、アフリカ、アメリカ、カナダ、ロシア、ヨーロッパから来た留学生と一緒に学び、お互いの国の食べ物や言葉を紹介したり、将来の夢を語り合ったりしました。そんな中、2011年3月11日、東日本大震災が起こり、高校でチャリティーコンサート、教会で日本への祈りの礼拝が行われました。電車内でスイス人のおじさんに、「日本人か、これから大変だろうけれど、必ず復興するから頑張れよ」とドイツ語で声をかけられ、世界の人々をより身近に感じました。ホストファミリーは私を温かく迎えてくれました。ウェルカムファミリーは30歳代のカップルで、二つ目のファミリーの15歳と11歳のホストシスターとは、一緒にバイオリン演奏、乗馬、雪のかまくら作りなどをしました。牧場の牛や山羊のいる、星空がきれいな坂道を自転車とバスで通学し、多くの授業ではクラスメートに簡単なドイツ語で助けてもらいましたが、数学では逆に頼られることもありました。また、オーケストラ、アイスホッケー、氷河への遠足に参加することもできました。このような環境で有意義な一年間を過ごした経験を大切に活かして将来につなげていきたいと思います。どうもありがとうございました。

## いけばな競技会の報告

華道部部长

7月30日S華道部員6名で、小原流会館にて開催された第25回大阪地区・学生いけばな競技会に参加しました。日頃のお稽古の成果を発揮し競う年に一度の場とあって、わくわくした気持ちと、また特に今回が初めての参加となるS1とS2の一部の部員は緊張とを感じながら会場へ向かいました。2階会場にはすでに関西の学校の華道部員が集まっています。大人数で参加している学校もあり、6名と少人数だった私たちはその雰囲気にも圧倒されそうでしたが、先生に最終確認をしたり部員同士で励まし合ったりと自分たちのペースを保つようにしていました。会場の雰囲気に慣れてきた頃、実際に花を生ける4階会場へと向かい自分の席と花材・剣山を、各自確認し選びました。今回の花材はバラ、カラー、カスミソウでした。生け込み時間として与えられた40分間は、生徒たちだけが静寂の中それぞれ生けました。審査待ち時間は2階会場で休憩用のおやつやレクリエーションを楽しみ、家元の作品、お話を聞いて有意義に過ごせました。

結果、1名が優秀賞、1名が準優秀賞、3名が佳作を、団体の部では準優秀賞をいただきました。発表の時はまさか賞をいただけるとは思っておらず、学校名を呼ばれた時は驚きました。少人数ながら団体賞をいただけたことは大変嬉しかったです。これを機に、華道部を盛り上げ、部員一同いっそうお稽古に励みたいと思います。



## ゲーンズ杯 高校生英語スピーチ・コンテストに参加して

高等学部 2年生

私はこのたび、広島女学院大学主催のゲーンズ杯高校生英語スピーチ・コンテスト2012に参加させていただく機会をもちました。

このスピーチコンテストは広島女学院の基礎を築いたゲーンズ女史の来日120周年記念として、2007年に始められたそうで、①「平和のために私ができること」、②「現代社会に生きる女性として」、③「地球環境を守るために」の3つのテーマ中から1つを選択して、スピーチを行います。

参加者の中で私のみ近畿地方からの参加ということで、不安もありましたが、広島女学院は本校とも関係が深いこともあり、校舎や大学生のみなさんの雰囲気にもこれと通ずるものを感じられたため、自然体で本番に臨めたように思います。

私は、①「平和のために私ができること」のテーマでスピーチを行ったのですが、予選を通過された他の11人の高校生のみなさんのスピーチは、それぞれの内容・プレゼンテーション共に深く感銘を受けるものばかりでした。

大会終了後にはレセプションがあり、そこで審査員の先生方から詳しくスピーチの評価をお聴きし、西宮に帰ってきました。

今回、このコンテストに参加し、優勝した喜びはもちろん、多くの出会いを得ることもでき、視野が広がったように感じます。支えてくださった全ての方々に感謝いたします。

## キャリアガイダンス報告

中高部では、2011年度よりキャリアガイダンス・プログラムを開始した。

中高部は、大学受験に特化した、いわゆる狭義の「進路指導」をしないという方針を貫いている。しかし、国家レベルでキャリア教育の重要性が議論され、「必修科目化」発言さえ出る今日、「神戸女学院の進路指導は〇〇です」と、肯定形で説明できる進路指導カリキュラムの整理、構築が急務となった。中高部生徒にふさわしいキャリアデザインとはどういうものか。ここで言うキャリアガイダンスとは、単なる職業選択を意味せず、個々の生徒が神から与えられた人生をどう主体的にデザインするかを考えるに資する、広汎で深みのある取り組みを意味する。

昨年度は手探りだったが、今年度から2年間で、個別の企画を回しながら、キャリアガイダンス・カリキュラムのグラウンド・デザインを構築し、それを軸に、キャリアガイダンス直轄プログラム、各教科や探究、諸行事等の関連づけを行う計画である。

今年度は、7月に「ケータイ安全教室」を開催したほか、12月には東京大学理事の磯田文雄先生に「これからの女子の進学、進路選択について」と題して講演をいただいた。中学部3年生には、White Horse Theaterによる英語劇鑑賞の機会を設けた。

学問的・理論的基礎の上に、生徒たちや保護者、同窓生の声に耳を傾け、社会の動きもしっかりと見据えて、カリキュラムづくりを進行中である。

(中高部教務課キャリアガイダンス係)



磯田文雄先生講演

『これからの女子の進学、進路選択について』



ケータイ安全教室

## &lt;課外活動紹介&gt;

[クラブ]

**S文芸部**

部員数は多くありませんが、永年にわたり、こつこつと同人誌を発行し続けてきたクラブです。書き溜めた小説や詩などを冊子としてまとめ、バザーや文化祭の折に、校内外の方へ差し上げています。冊子は年に数回発行しますが、最近は、漫画・イラスト研究部と共同で発行することもあります。『山つつじ』と題する冊子（年刊）が最も中心となる成果です。調べてみると、今年の『山つつじ』が「第51号」となるので、S文芸部は少なくとも51年間の歴史を刻んできたこととなります。

(顧問)

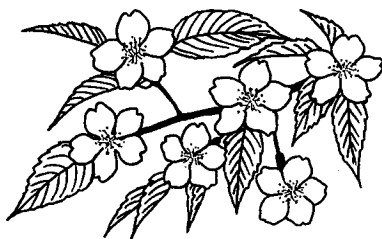


冊子の数々

[クラブ]

**Sコンピュータ部**部 長  
副部長

初めまして。Sコン部ことSコンピュータ部です。去年できたばかりのクラブですが、毎週火・金にITセンター1階にて活動をしています。毎回最初にタイピング練習を行ってから、火曜日はC#をつかってプログラミングを、木曜日には自分たちでJavaScriptについて研究をしています。自分たちのオリジナルゲームを作り文化祭で展示するという目標のために日々励んでおります。まだまだ小さい部活なので新入部員さん大歓迎です！みんなで楽しくプログラミングしましょう！



## [クラブ] S漫画・イラスト研究部

部長

私たちS漫画イラスト研究部は、毎週月曜日と水曜日に205室にて活動しています。年に2回『翔』という冊子と、『Duet』という文芸部との合同誌を発行しています。普段はイラスト練習をしています。和気あいあいと部員皆で描く時間はとても楽しいです！絵を描くのが苦手な人でも楽しめると思います。それどころか、上手くなるかもしれません！去年は部長賞をいただいて、さらに飛躍したいなと思っています。文化祭やバザーで見かけられたら、是非お立ち寄りください。

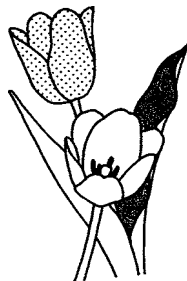


定期刊行誌「翔」

## [奉仕活動団体] 雫の会

前会長

雫の会は、有志の中高部生による奉仕活動団体です。主な活動は、月例会での話し合い、行事での募金活動や古本販売、発展途上国の子どもたちへの支援や文通です。去年は、「調べ学習」として、世界の諸問題についての動画を作成したり、「MONO 寄付」として、中高部の皆さんのご協力のもと、日興商会を通し発展途上国の子どもたちに文房具を送ったりしました。他にも、プランジパンの「世界一大きな授業」や、WITH 主催の講演会への参加など、より充実した活動を目指しています。



## 〈学院日誌〉

12月19日(水)	理事会	2月20日(水)	中高部教員会議
1月8日(火)	中高部始業日	2月21日(木)	文学研究科春季入学試験
1月9日(水)	中高部教員会議	2月21日(木)~22日(金)	人間科学研究科春季入学試験(博士前期課程、博士後期課程)
1月18日(金)	教授会	2月27日(水)	理事会
1月19日(土)・20日(日)	大学入試センター試験	3月1日(金)	高等学部卒業式 文学部・人間科学部一般入学試験(後期日程)
1月19日(土)・21日(月)	中学部入学試験	3月6日(水)	中高部教員会議
1月23日(水)	理事会 中高部教員会議	3月7日(木)	教授会
1月29日(火)	文学部・人間科学部一般入学試験(前期A日程)	3月19日(火)	大学卒業式、大学院修士学位記授与式
1月29日(火)~31日(木)	音楽学部一般入学試験(前期A日程)	3月21日(木)	中高部教員会議
1月30日(水)	文学部・人間科学部一般入学試験(前期B日程)	3月22日(金)	中学部卒業式、中高部終業式
2月6日(水)	中高部教員会議	3月23日(土)	オープンキャンパス
2月12日(火)	文学部・人間科学部一般入学試験(前期C・D日程)	3月27日(水)	理事会 評議員会 臨時理事会
2月15日(金)	教授会		

## 目次

一生を棒にふって 人生に関与せよ……………1
クリスマス報告……………3
2013年度年間標語……………5
KCC-JEE 前会長 D.J. サーケルソン先生来校…5
KCC だより……………6
退職のことば……………9
人事・慶弔・栄誉……………14
秋季公開講座報告と春季公開講座のお知らせ…15
史料室の窓・キャンパス探訪(1)……………16
新刊紹介……………17
オフィスの宝物……………18
大学報告
英国イースト・アングリア大学と交換留学協定を締結…19
KC キャリアカフェ……………19
第4回卒業公演を終えて……………20
学生寮音楽学部生有志によるチャリティーコンサート…20
文学部講演会……………21
“第2回武庫川流域圏ネットワーク活動報告会”開催…21
第37回神戸大学院大学英語英文学会(KCSSES)大会報告…22
2012年度 音楽学部定期演奏会報告……………22
2012年度文学部卒業論文題名……………23
2012年度音楽学部卒業演奏会演奏曲目……………35
2012年度人間科学部卒業論文題名……………37
2012年度文学研究科博士論文題名……………41

2012年度文学研究科修士論文題名……………41
2012年度音楽研究科修了公開試験曲目……………42
2012年度人間科学研究科博士前期課程・修士論文題名…43
先輩からのメッセージ……………44
2013年度大学入学試験結果(2/20現在)報告と概要…45
2013年度夏期語学研修参加者募集……………45
受入れ留学生報告……………46
留学生パティ報告……………46
研究所活動報告……………47
女性学インスティテュート活動報告……………49
私の研究……………50
課外活動紹介……………51
中高部報告
冬の修養会 釜ヶ崎訪問から考えたこと……………52
冬山スキー……………52
先輩からのメッセージ……………53
第47回クラブ部長賞、第28回文化・スポーツ賞…54
2013年度中学部入学試験について……………55
チューリッヒ州立オーバーラント高校留学報告…56
いけばな競技会の報告……………56
ゲーンズ杯 高校生英語スピーチ・コンテストに参加して…57
キャリアガイダンス報告……………57
課外活動紹介……………58
学院日誌……………60